

所在地：山口県岩国市

選定年月日：令和3年10月11日

面積：487.3 ha

選定基準：二(一)(七)(八))

(1) 概要

山口県東端部の岩国市に所在するこの文化的景観は、岩国城下町を由来とします。この城下町は、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いのすぐあと、軍事的緊張が残る周防(すおう)と安芸(あき)の国境付近に、旧山陽道と瀬戸内海を見渡せる山を城山(しろやま)として開かれます。藩主居館や諸役所、重臣の屋敷等が置かれる城山の麓と、中下級の家臣屋敷や町人地等が置かれる岩国山の麓を、錦川が大きく隔てることを特徴とします。城下町整備における護岸や水路、各時代の建造物等には、河川氾濫や内水氾濫に対する備えと共に、川と密接に関わる時代ごとの暮らしが表れます。

それを代表する一つが錦帯橋です。河床が安定した平瀬(ひらせ)を選び、流されない橋を目指し、延宝元年(1673)に当時の建築土木技術の粋を集めて架橋されたもので、登城路と大手虎口を直線的に繋ぎます。

その独特な姿は周囲の自然と共に景勝を成し、名所となって物見の賑わいをもたらしてきました。また、それが経済活動や文化活動を支え、城下町の趣を伝える町並みに、木造三階建の旅館、時代の特徴を示す店舗、桜並木等の新たな景観を調和的に生み出します。人々の環境保全の努力も伴い、近世の絵画に描かれる風景が良好に引き継がれています。

自然の特性を踏まえた開発が都市の個性を生み、往来の賑わいを生み、産業を育むという連関を示す独特な事例として貴重です。



城山からの望む岩国城下町



橋詰の木造三階建の旅館等の町並み

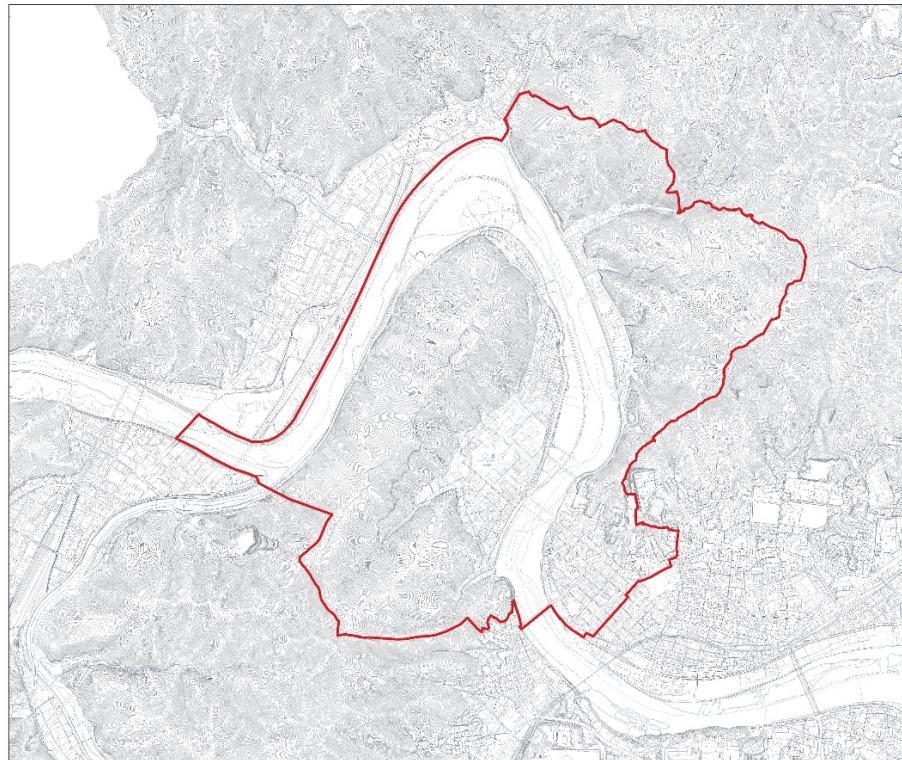


錦川に架かる錦帯橋と兩岸の城下町



錦帯橋への水流を弱める石出し護岸

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：69件
- 国指定等文化財：錦帯橋（名勝）、旧目加田家住宅、吉香神社（重要文化財）、岩国徴古館、岩国徴古館第一収蔵庫、岩国徴古館第二収蔵庫、錦雲閣（登録有形文化財（建造物））
- 景観重要建造物：28件、景観重要公共施設：64件

（３）選定による効果

岩国城下町では、錦川と周辺の山々、兩岸の城下町とそれをつなぐ錦帯橋、これらが一体となって織りなす風景が、江戸時代中期から観光地として多くの人々の往来を生み出し、それをもてなす人々の営みが、良好な景観とともに現在まで続いています。こうした都市岩国の発展のルーツである城下町の歴史や背景、受け継がれてきた文化など、選定を契機に、地区住民をはじめ、多くの市民が改めて認識するきっかけとなりました。



錦川と兩岸の城下町



文化的景観の観察会

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 錦川下流域における岩国の文化的景観保存調査報告書（平成31年3月、岩国市）
- 錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観保存活用計画（令和3年1月、岩国市）
- 錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観整備計画（令和6年3月、岩国市）
- ホームページ

<https://www.city.iwakuni.lg.jp/soshiki/40/38763.html>

（５）活用事例

事例35-01 ①

市民参加の公募による重要文化的景観エンブレムの作成

●行政による取り組み

重要文化的景観について、地区住民はもとより広く市民に知ってもらい、同時に興味を持ってもらうことを目的として、市民参加の公募形式で重要文化的景観のエンブレムを作成しました。

4つの図案を市のホームページや広報誌を通じて公開し、重要文化的景観の特徴を最も良く表現していると思うデザインへの投票を呼びかけ、総数517票の投票の結果からデザインを決定しました。

完成したエンブレムを使った普及啓発用のアイテムの作成や、地区で開催されるイベントのポスターに印刷されるなど重要文化的景観の周知の一助となっています。今後は選定範囲内に整備する案内看板や配布物などへの活用が見込まれます。

投票した市民の声

- ・エンブレムがきっかけとなりお花見の季節にこの角度から見る人が増えると良いなと思いました。
- ・岩国城、錦帯橋、岩国寿司など、魅力的なものが多い岩国の良さを広く知ってもらえるきっかけになれば良いと思います。



決定したエンブレム



市長記者会見でのエンブレムの発表



投票用のホームページ



エンブレムを使ったグッズ（缶バッチ）の作成

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例35-01 ②

小学校の地域学習の時間を活用した錦帯橋と岩国城下町の学習

●行政と住民等の協働による取り組み

錦川によって兩岸に大きく隔てられた岩国城下町は、延宝元年に架けられた錦帯橋によってつながり、創建当時と変わらない姿で今も多くの来訪者を迎えています。

毎年、錦帯橋近くの小学校では、岩国城下町の成り立ちや錦帯橋の架橋の背景について学ぶ時間を設け、そこで学習した内容を見聞の手でまとめて錦帯橋の袂や城下町で来訪者に自分たちの言葉で錦帯橋と岩国城下町の魅力を伝えています。

地区の子どもたちにとって通学路にも利用され日常の風景の一部となっている錦帯橋や岩国城下町の景観に、ここにしかない物語や魅力が隠されていることに気付くきっかけとなり、城下町の景観を受け継ぐ次の世代の子どもたちに文化的景観の魅力を伝えていく試みを進めています。

参加した小学生の声

錦帯橋がどのように守られてきたかを知ることができました。錦帯橋だけでなく周辺の緑やまちもきれいにしていきたいです。



錦帯橋袂での児童の学習



小学校での錦帯橋や城下町に関する学習



児童が作成した案内ポスター



児童による来訪者へのガイダンス

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり